

# 京都舞鶴港 日本海側拠点港の選定に向けた取組み戦略

京 都 府

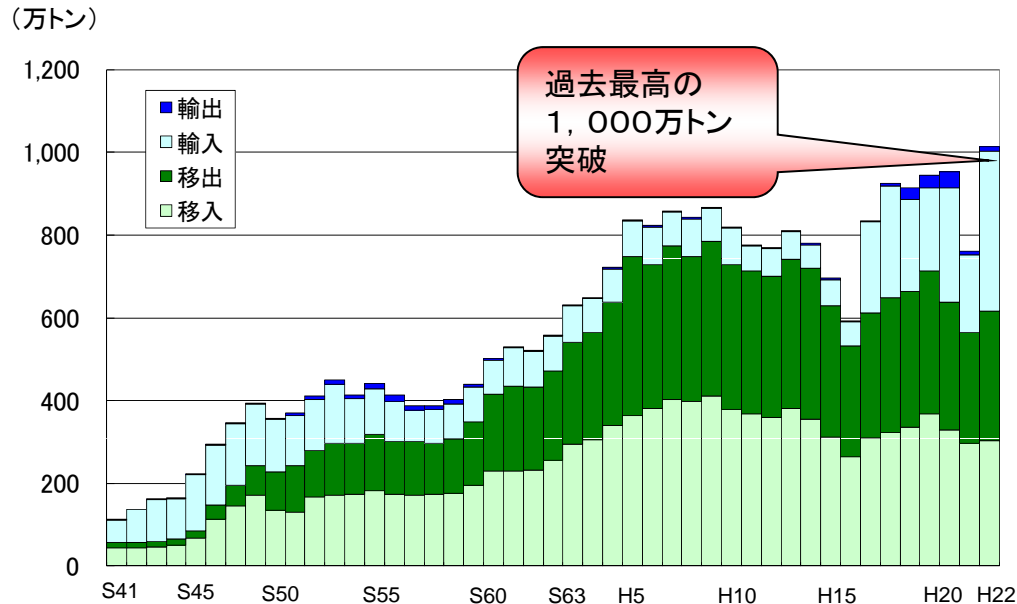
# ○京都舞鶴港の現状と取組戦略

## ●定期航路



- 韓国定期航路**  
釜山→舞鶴→敦賀→金沢→釜山  
週1便
- 中国定期航路**  
青島→大連→舞鶴→新潟  
→伏木富山→金沢→境港→青島  
週1便
- ナホトカ定期航路**  
ナホトカ→新潟→舞鶴→門司  
→神戸→大阪→名古屋→横浜  
→常陸那珂→ナホトカ  
月1~2便
- 北海道フェリー**  
舞鶴→小樽  
週7便

## ●取扱貨物量



## 5つの戦略

### 1 機能戦略

～環日本海洋上ネットワークの構築と広域的防災機能の強化～

### 2 集荷航路戦略

～コンテナ・フェリー・バルク等バランスのよい  
内外貿機能の強化～

### 3 港湾連携戦略

～港湾連携による太平洋側との役割分担と  
リダンダンシーの確保～

### 4 イメージ戦略

～関西経済圏唯一の日本海側ゲートウェイとして  
「京都北部の港」から「京都の港」へ～

### 5 地域経済振興戦略

～企業立地の促進と民の視点による港湾運営～

## ■機能戦略

### ～環日本海洋上ネットワークの構築と広域的防災機能の強化～

東日本大震災における臨海部の広域被害で明らかになった太平洋側一軸一極構造の弱点を克服し、我が国の国際競争力を安定化させるために、日本海側の港湾（海上交通）、高速道路、高速鉄道ネットワークの戦略的整備による人流・物流の輸送機能強化と広域的な地域連携の取り組みを加速することが必要です。このため、今後10年をめぐり、京都から対岸諸国に繋がる国際フェリー航路等によるヒト・モノ交流機能や特色のあるバルク拠点機能の構築・強化、さらに太平洋側と相互補完機能を併せ持つ防災拠点機能の強化等、関西唯一の日本海側のゲートウェイとしての京都舞鶴港の機能強化を積極的に進めます。



#### ○国際・国内フェリーネットワークの構築によるヒト・モノ一貫輸送体系の構築

- (1) 地理的優位性を最大限に活かし、京都から海へ、海から中国、韓国、ロシアに繋がる国際一貫輸送体系を構築を目指す。
- (2) 国際・国内フェリー航路を有機的にネットワークし、日本海側におけるヒト・モノ輸送ハブを構築。同時に、産地と直接リンクする食料等特色のある貨物の日本海側集積拠点をを目指す。

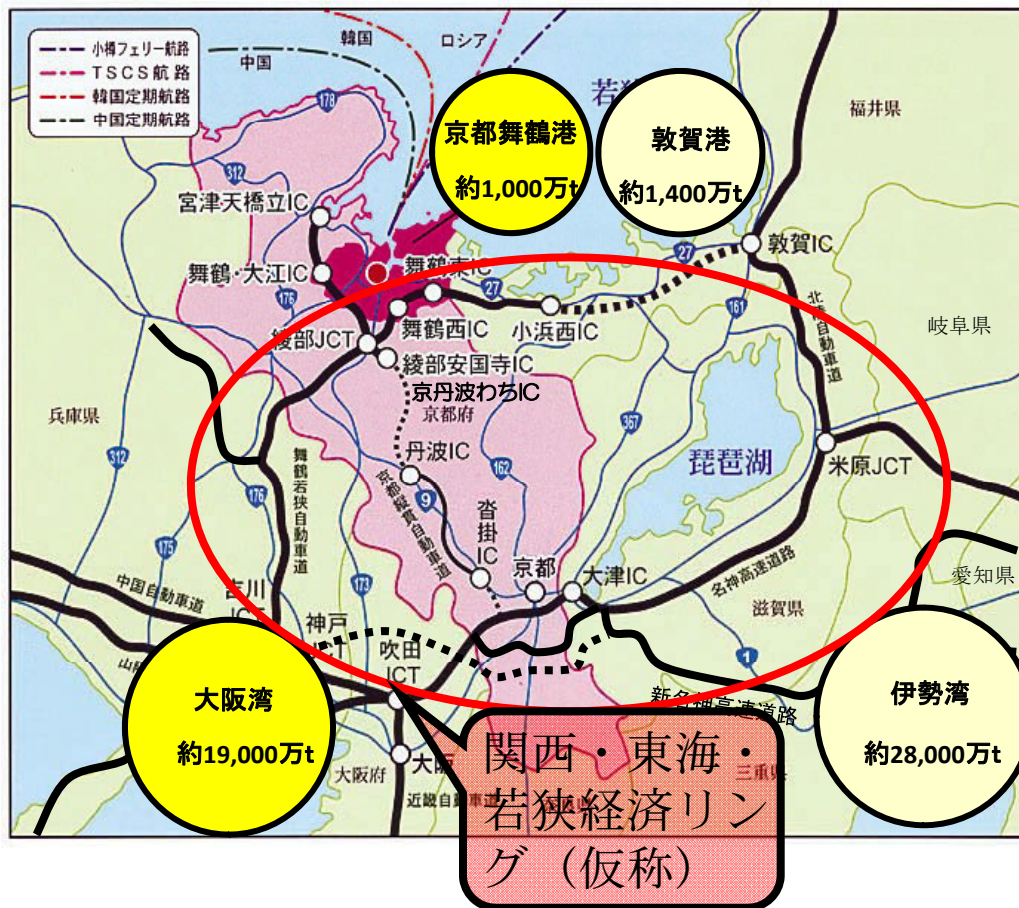
#### ○広域的防災機能等の強化

- (1) 東日本大震災では、京都舞鶴港から派遣された海上自衛隊の艦艇部隊や海上保安庁の巡視艇等が大きな役割を果たした。京都舞鶴港は、海上自衛隊総監部と海上保安本部が立地する日本唯一の港湾であり、これらの海事機関の立地や日本で太平洋側と日本海側が最も近いという地理的条件を活かし、日本海側や内陸災害に対する広域防災機能のほか、太平洋側のバックアップ機能や対岸諸国への国際貢献のための防災機能を併せ持つ防災拠点機能の強化を図る。
- (2) 通年波高が30cm未満95%の静穏性と大型造船所等の立地を活かし、船舶避難機能の強化を図る。

## ■ 港湾連携戦略

### ～ 港湾連携による太平洋側との役割分担とリダンダンシーの確保～

平成26年度には、京都縦貫自動車道と舞鶴若狭自動車道が全線開通し、関西圏、中京圏及び若狭湾を結ぶ高速道路ネットワークが完成します。これにより、我が国最大のモノづくり拠点同士がいわば巨大なリングにより連結され、巨大な経済圏の一体化が進むと考えられます。この我が国の経済成長センターを更に国際競争力のある地域とするとともに、大規模広域災害時にも機能を維持することが可能なリダンダンシーを備えた地域とするため、大阪湾、若狭湾等の広域的な相互補完機能の確保などの戦略的な連携強化を図ります。



### ○ 太平洋側港湾との機能分担と相互補完

- (1) 関西唯一の日本海側拠点港として、対岸諸国との地理的優位性を活かした国際旅客・国際複合一貫輸送などの機能を中心に阪神港との機能分担を図り、日本海側ゲートウェイ機能の強化等について国際物流戦略チームにおいて、位置づけ。
- (2) 東日本大震災で明らかとなった超広域被災時の救援物資輸送や港湾物流継続の重要性を踏まえ、緊急時に阪神港の日本海側港区として機能するなど、阪神港との相互補完機能を確保し、一体となって関西圏全体の事業継続計画 (BCP) に寄与するとともに、国際コンテナ戦略港湾のリダンダンシー確保により、緊急時に基幹航路が我が国を抜港することを阻止するなど、政策の推進に寄与。
- (3) 中国等の莫大な国際旅客需要を受ける日本海側拠点として機能し、関西の広域観光連携による地域全体の活性化に寄与。

### ○ 日本海側諸港との連携強化

- (1) 背後圏に関西、中京の巨大な経済圏を抱え、日本海側の拠点となるポテンシャルを有する若狭湾における港湾連携により、一体となった取組を推進し機能を強化。
- (2) 日本海側諸港との連携により、未だ未開拓な世界ジオパークをはじめとする日本海側の観光拠点と対岸諸国を結ぶ日本海洋上ネットワークを構築。